

第2回入退院時連携推進部会を開催しました

- 12月23日(木)上越市福祉交流プラザにて、第2回入退院時連携推進部会を開催しました。参加者は部会メンバー7人、在宅医療推進センター2人、事務局4人でした。オンライン開催が続く中、久々に全員で会場に集合して開催しました!(貴重な写真は撮り忘れてしまいました…)
- 12月17日に行われた上越市内高田地区の4つの地域包括支援センターが合同開催したケアマネジャー研修会に、部会として参加しました。当日の研修会内容を振り返り、各々職場でのコロナ禍における入退院時支援の課題や工夫点について意見交換しました。

【コロナ禍における入退院連携について】

- 在宅(ケアマネジャー)の立場
 - ・ 電話で病棟スタッフに質問しても「担当ではないから分からない。」と返答されることがある。電話だけでなく、退院カンファレンス時にも、食事形態や入浴、生活介助について質問すると、看護師では分からないと返答されることがある。
 - ・ 病院側が回答しやすいようになるべく具体的に質問している。生活動作については、こちらからリハビリ専門職に聞いてほしいと依頼することもあるが、難しい場面もある。病院は忙しいので、電話をする時間にも悩む。
 - ・ ご自宅の写真や動画を情報提供し、退院後の在宅生活を具体的にイメージできるように工夫している。

●病院の立場

- ・ 病棟はチーム対応しており、毎日スタッフが替わるので、チーム全員が在宅側の知りたい情報を返答するというのは難しい時がある。病院からケアマネジャーに折り返し連絡しようとしても、なかなか連絡がつかない。
- ・ 在宅生活(玄関の高さや風呂を跨げるか等)をイメージしにくいいため、情報をどのように具体的に伝えたらよいか分からない。在宅側が知りたい情報には、個別性があると思うので、在宅側から知りたい情報を具体的に聞いてもらえれば、できる範囲で情報提供したい。

●意見交換から見えてきたこと

- ・ 在宅側が医療側に対して、入院前の様子や本人家族の思いを地域連携連絡票等で具体的に伝え、その上で在宅生活に必要な情報を具体的に聞き取ることが必要ではないか。
- ・ 在宅側が求める情報について、医療側が分かりやすく、かつタイミングよく見てもらえるためにも、チェックリストがあれば、互いに良いのではないか。

【まとめ】

- ・ 互いに連絡の取りにくさを感じているため、病院の連絡先一覧を更新し、窓口の周知を図る。
- ・ 在宅側が知りたい情報のチェックリストについて検討する。

【次回について】

- ・ 病院の連絡先一覧の更新と在宅から病院に送るチェックリストについて検討します。